迫圏域協議体報告

第２回：平成２８年９月１３日（火）

迫圏域キャッチフレーズ

～地域支え愛～

おでってNet

迫地域に、近隣同士の支え合い活動の輪を広げていきましょう！の意味を込めて、「おでって」（お手伝い）のネットワーク活動波及への狙いが込められている。

第２回のテーマ
「迫町。この地域について思うこと・・・」

- 社会参加が介護予防につながり、また地域の支え合いの拠点ともなるミニデイ。そのミニデイに出てこない人の意識改革をどうしたらよいか？（60代の若い人）
- 老人クラブの活性化が必要なのではないか？新規会員の増加に向けた取り組みを考えることも必要。（新規会員は会費１年間無料や、90歳以上も無料など…）
- 次世代を担う“子供達“を地域の中へ入れる工夫をした方がよい。
- ボランティア活動者…新しい人（リーダー）が入ってこない。

第２回のテーマ
「迫町。この地域について思うこと・・・」

・今回の介護保険の改正は「地域づくり」へと繋がっていく。
地域づくりは区長、自治会長の意識によるところが大きい。
どのように意識付けを行っていくのかが重要。

・独居、高齢者世帯が増加してきているのは実感しているが、
困っていることの実態（課題）を把握していくことが協議体として考えていくことではないか？
アンケート調査などを行ってみてはどうか？

今後の協議体での展開

・独居、高齢者世帯への実態把握アンケート調査。
・老人クラブの活性化が地域を元気にしていく秘訣との観点から老人クラブ増への話し合いを進める。
・ボランティア活動者の発掘と育成。
（生活支援の担い手）
・地域リーダー・地域住民へ向けて、今後の地域づくりについての説明会・研修会を実施していく。
・子供達との連携した取り組み。

登米・東和圏域協議体報告

第２回：平成２８年９月１５日（木）

登米・東和圏域キャッチフレーズ

～明日も元気で～

おみょうにち♥

「おみょうにち」には、「明日も元気でまた会いましょうね！」という前向きな意味があり、この言葉を通して地域住民が顔の見える関係性を構築していこうという意味が込められている。

第2回のテーマ
①「地区の若者を地域行事に出すには？・・・」

（東和）
・伝統行事には、仕事を休んで参加する。
・支え手であるスタッフは年々足りなくなってきている。

（登米）
・秋祭りの山車作りの協働作業が地域づくりそのもの
・祭り当日の達成感、参加意識の高揚　～参加意識に差があって当然
・地域づくりも同じではないか？

第2回のテーマ
①「ひとり暮らしの高齢者について・・・」

・東和のある地区では、13世帯の内、7世帯が独居。
　5世帯が未婚。2世帯が高齢者世帯となっている。

・高齢の親子世帯も増加。
　⇒それぞれ地域の特徴があり、もっと個別単位で地域を
　　見ていかないといけない。

このような状況なので、これからは
“地域とより繋がっていかなければならない。”

登米・東和圏域について

・登米・東和圏域は他の町と比べ

「土砂災害に注意しなければならない地区」

・土砂災害を念頭において生活しなければならず、その為には災害が起きてから行動するのでは遅く、平時から常に要援護者等の見守りや支援体制を構築しておく必要がある。

・官民連携し、要援護者世帯の情報共有を行う必要がある。

登米・東和圏域について

・同じ町域でも行政区によって、事業行事への取り組み方が変わってくる。
（若年層や子供たちのいる、いない等の家族構成等の実態が基盤になる）

・登米・東和圏域では、かつて町の中心街と云われた地域に、高齢者のみの世帯が多く、祭りや行事の存続も危ぶまれる。
【実例】限界市街地（シャッター街）
→祭りへの取組み方・内容の変更

今後の協議体での展開

今後は登米・東和それぞれの町域で連絡会を開き、町ごとの課題把握に努める。

圏域共通の課題・方向性は

『支え合いの地域づくり・災害に強い町づくり』

『後ろ向きではなく、前向きにいこう！』

中田・石越圏域協議体報告

第２回：平成２８年９月１４日（水）

中田・石越圏域キャッチフレーズ

～支え合い～

かわりねすか

「かわりねすか」＝「お変わりありませんか」の意味で、この言葉を通じて地域住民が気軽に挨拶を交わし、互いを気遣う支え合いの地域づくりを目指す。地域のつながりはまず挨拶から。

第２回でのテーマ
「もし、ひとり暮らしになったら・・・」

・住民同士の送迎ボランティアが必要だ。
・弁当配達の業者を取りまとめた一覧表がほしい。
・浅水コミュニティ運営協議会では、地元の業者「穂のか」と連携し、配食サービス日以外の日に対応できるようシステムを構築した。
（住民アンケートの結果、今は必要ないが今後必要と感じた人が４７％あった。）
・移動販売車
・行政の支援を手厚く。

第２回でのテーマ
「もし、ひとり暮らしになったら・・・」

・全てをボランティアで賄うのではなく、「コミュニティビジネス」などの検討も必要。
（※地域が抱える課題を、地域の資源を活かしながら解決する事業。）

・困った人がいたら皆で考えていく体制、隣近所での話し合いの数を増やす。

・本人の能力、課題分析を行い、地域の人と一緒に考えていく。

・行政区、コミュニティ単位で「できること」「できないこと」を考え、お互いの弱みをカバーし、強みを活かす。

今後の協議体での展開

～話し合いの積み重ねが、地域を良くする第一歩～

①委員も発信役

　すでに地域にある活動が、生活支援や介護予防、地域づくりに繋がっていることを委員自身もしっかりと認識し、その活動を継続すること、地域へ広く展開することを応援します。

②小地域での話し合いの場づくりを支援

　地域の中には「自分達で何かをはじめよう」という動きも出てきています。まずは、小地域（行政区）単位で、“我が地域”を見つめ直し、地域のことを話し合うことが、暮らしやすい地域への近道ではないかと考えます。

今後の協議体での展開

～話し合いの積み重ねが、地域を良くする第一歩～

　そのような活動や、話し合いを行う中でおのずと**『課題』や地域に必要な支援**なども見えてきます。

　その課題解決に向けた話し合いを行うのも協議体の役割です。２回目の話し合いで出た意見も生かしながら、今後も**話し合いを積み重ね**ていきたい。

米山・南方圏域協議体報告

第２回：平成２８年９月１３日（火）

米山・南方圏域キャッチフレーズ

～人・心・地域をひとつに～

健康で長生きするには、「体を動かす」「バランスの良い栄養を摂る」「社会性がある」の３つの秘訣がある。中でも、社会参加をすることは介護予防につながるとの視点で、地域に気軽に寄れる「集いの場づくり」が必要であり、まずは『よっぺす』の合言葉の下、集いの場への参加、発見、開発を呼びかける狙いがある。

第２回からの意見
「老人クラブの減少問題について・・・」

⇒高齢者は増加しているにも関わらず、老人クラブは減少傾向にある。

（理由として）

・６０歳から入れるということを知らない。
・会の中でも６０代と８０代とでは世代間の隔たりがあり、一緒に行動することに抵抗がある。
・助成金の申請書類等が面倒。
・今は元気で免許を持っている人が多く、「自分と気の合う人と、好きな所へ行き娯楽を楽しんでいる。
・「老人」という名への抵抗感が大きい。

第２回でのテーマ
「この地域にあったらいいなぁと思うこと…」

・移動販売。　（昔はよく見かけたものだが…）
・タクシー、バスなどの乗合いサービスが多くあれば、行動範囲も増え社会性が増す。
・老人クラブ
・喫茶店（カフェ）

米・南4

～今後の協議体での展開～

・次回から具体的な話し合いに入って行く予定。
・第2回協議体会議のテーマで出た、元気老人の増加が、地域づくりや支え合い・介護予防を通じ介護保険給付費の減少に繋がって行く。
・今後は、「よっぺす」の拡充を協議体で考えていくこととなる。

米・南5

豊里・津山圏域協議体報告

第２回：平成２８年９月９日（金）

豊里・津山圏域キャッチフレーズ

～人と人とをつなぐ～

ゆいっこ

「結（ゆい）」とは、主に小さい集落などで行われてきた共同作業の制度で、集落の住民総出で助け合い、協力し合う相互扶助の精神で成り立ってきた。現在はこの制度も影を潜めてきたが、またこのような相互扶助の精神を“豊里・津山地域”に取り戻そうという願いが込められている。

第２回のテーマ
「あなたの住む町のいいところ・・・」

（豊里）

・新しい人を受け入れてくれる。
・日常生活が穏やかでまとまりがある。
・人懐っこく近所付き合いもある。
・つながりがあるので、子供達の名前も憶えやすい。

⇒一方で、町中にはつながりの無い人もいる。

その人達を何らかの方法でつなげてあげたい。

第２回のテーマ
「あなたの住む町のいいところ・・・」

（津山）
・独居世帯が多い。
⇒交流が減っている人への支援が必要。
・農作業後の庭払い（餅をついて振舞う）
・地域の人が周りの人に関心がある。
⇒一方で、人口減少への対応をどうするか。
　店が無いので無駄遣いをしない良い点もあるが、数人集まって食事をする機会が少ない。
（買物や食事をする店がない。）

～今後の協議体での展開～

・豊里、津山を一つとして考えるのは難しい。
（風土、歴史、文化、町のつくり、住む人々…が違う。）

⇒町ごとの連絡会を開いて、町ごとに話し合いの場を積み重ねていってはどうか？
・協議体の構成メンバーの年齢層の幅を広げることも必要ではないか？（担い手、若い世代）
・話し合いの場をたくさん作ってほしい。（地域の課題解決力を高めるには、まずは話し合いの場から）
・免許返納者や、買い物に困っている人など「実際に課題を抱えている人」からの声を聞いてはどうか？